

令和6年度総合型選抜入試 過去問題

令和6年度 公募制自己推薦(AO型) 院友子弟等特別選考 (文学部日本文・哲学科のみ) 社会人特別選考

文学部 日本文学科

筆記試験

次の文章は、『平中物語』中の一文である。これを読んで、後の問いに答えなさい。なお、**1**～**5**は段落番号を表す。

1 男、いささか人に言はれ騒がることありけり。そのこと、いとものはかなきそらごとを、あためける人の、作り出でて言へるなりけり。

2 さりければ、「かう心憂きことと¹思ひなぐさめがてら、心もやらむ」と思ひて、津の国の方へぞ行きける。

3 忍びて、知る人のもとに、「かうてなむ罷る。憂きことなど、慰みやする」と言へりければ、
(女)世の憂きを思ひながすの浜ならば我さへともに行くべきものをとある返し、
(男)憂きことよいかで聞かじと祓へつづ違へながすの浜ぞいざかして、去にけり。

4 行き着きて、長洲の浜に出でて、網引かせなど遊びけるに、うらうらと春なりければ、海いとどかになりて、夕暮れになるまに、²いつの間にか思ひけむ、憂かりし京のみ恋しくなりゆきければ、思ひながめつつ心の内に言はれける、
(男)はるばると見ゆる海辺をながむれば涙ぞ袖の潮と満ちけるとぞながめ暮らしける。

5 さて、その朝に、「さなむありし」と³文に書きて、京の、かの罷り申しせし人のもとに言ひたりける。女、
(女)渚なる袖まで潮は満ち来とも葦火焼く屋しあれば干ぬらむなどなむ言ひおこせたりける。⁴さりければ、久しくも長居で、帰り来にけり。

(注)○いとものはかなきそらごと一 ずいぶんつまらない作り話。
○あためける人一 「男」を恨んでいる人物。
○知る人一 「男」と契りあった女。
○違へながす一 災厄を身代わりの人形に移しかえて、それを水に流し、清めること。
○いざかし一 “さあ、と強く誘う表現。
○長洲の浜一 兵庫県尼崎市の海沿いの地とされる。
○葦火焼く屋一 「長洲の浜」付近に住む女性の存在を示唆する。

問一 **1**段落の「いささか人に言はれ騒がる」の「人」を**A**と呼び、「あためける人」を**B**と呼ぶとする。**A**がどのような「人」であるかを示しつつ、**B**が男にもたらした影響について、一〇〇字以内で説明しなさい。なお、「火種」という語を使用すること。

問二 傍線部**1**「思ひなぐさめがてら、心もやらむ」の内容を五〇字以内で説明しなさい。その際、「思ひなぐさめ」のすること、「心もやる」ことを区別して書きなさい。

問三 **2**段落末尾の「行きける」、**3**段落末尾の「去にけり」は、同じ内容を示している。そのことに注目しつつ、**2**段落・**3**段落それぞれの役割について六〇字以内で説明しなさい。

問四 **3**段落の和歌の贈答について、女・男それぞれの心境を明らかにしつつ、一〇〇字以内で説明しなさい。

問五 傍線部**2**「いつの間にか思ひけむ」を境にして「男」の心境が変化している。どのように変化していったのかを、五〇字以内で説明しなさい。

問六 傍線部**3**「文に書きて」とあるが、「男」が「女」に贈った手紙の内容は、どのように推定することができるか。五〇字以内で書きなさい。

問七 傍線部**4**「さりければ」は「女」が贈ってきた歌はこのよう内容であったので、という意味だが、下文「久しくも長居で、帰り来にけり」という男の行動につなげて理解するためには、「男」が「女」の歌をどのように受けとめたのかを補って読む必要がある。それについて一〇〇字以内で説明しなさい。

問八 あなたが映画監督としてこの物語を映画化とした場合、カメラワークを駆使して俳優の表情を大写したり、過去の回想場面を挿入したりして濃密に描きたい部分はどこか。その段落番号を示しつつ、その理由について二〇〇字以内で説明しなさい。なお、この物語の主題、展開を大きくそねないかたちでの映画化を構想するものとする。

文学部 史学科

論述試験

<注意事項>

- ・**1**の①～④から1つを選択して解答すること(受験生全員必須)。
- ・公募制自己推薦(AO型)入学試験受験者は、**2**を解答すること。
- ・院友子弟等特別選考入学試験受験者は、**3**を解答すること。

1 ①次の英文は、フランス革命期の「人権宣言」の意義と限界について述べたものである。この文章を400字程度で要約したうえで、人権宣言で提起された「人権」概念について、自身の意見を400字程度で述べなさい。(全体で800字を超えないこと。)(本文は著作権の関係で省略)

1 ②次の文章は、『宇治拾遺物語』の一節を抜き出したものである。この文章を読んで、ここに記されている事件発覚の経緯を三〇〇字程度にまとめなさい。あわせて伴善男がなぜ事件を起こそうと企てたのか、「忠仁公」「信の大臣」「西三条の右大臣」ら当時の政界上層部の動向を踏まえた歴史事実を四〇〇字程度で説明しなさい(ただし、全体で八〇〇字を超えないこと)。

今はむかし、水の尾の御門の御ときに応天門やけぬ。人のつけたるになんありける。それを伴善男という大納言、これは信の大臣のしわざなりと¹大やけに申ければ、その²おとゝをつみせんとせさせ給ふけるに、忠仁公

世の政は御おとうとの西三条の右大臣にゆづりて白川にこもり給へる時にて、この事をきゝおどろき給て、御³烏帽子直衣ながら移の馬にのり給て、のりながら北の陣までおはして、御前にまいる給て、この事申人の讒言にも侍らん。大事になさせ給こといと⁴ことやうの事なり。かゝることは返々よくたゞしてまこと空ごとあらはしておこなはせ給べきなりとそうし給ければ、まことにとおぼしめしてたゞさせ給に、⁵一定もなき事なれば、ゆるし給よし仰せよとある宣旨うけ給てぞおとゝはかへり給ける。左のおとゝはつゆ犯したる事もなきにかゝる⁶よごまの罪にあたるをおぼしなげきて、⁷日の装束して庭に⁸あらごもをしきていでゝ天道にうたへ申給けるに、ゆるし給ふ御使に頭中将馬にのりながらはせまうでければ、いそぎ罪せらるゝ使ぞと心えて、⁹ひと家¹⁰なきのゝしるに、ゆるし給よしおほせかけてかへりぬれば、又よろこびなきおびたゞしかりけり。ゆるされ給にけれど、大やけにつかうまつりては、よごまの罪いできぬべかりけりといひて、ことにものやうに宮づかへもし給はざりけり。この事は過にし秋の比右兵衛の舎人なるもの、東の七条に住けるが、つかさにまいりて夜深て家に帰とて、応天門のまへをとをりけるに、人のけはひしてさゞめく。廊の腋にかくれたちてみれば、柱より¹¹かゝぐりおるゝものあり。あやしくてみれば、伴大納言なり。次に子なる人おる。また次に¹²雑色とよ清といふものおる。なにわざしておるゝにかあらんとつゆ¹³心もえてみるに、この三人おりはつるまゝにはしることかぎりなし。南の朱雀門¹⁴ぎまに走ていぬれば、この舎人も家ぎまにゆくほどに、二条堀川のほど行に大内のかたに火ありとて大路のゝしる。みかへりてみれば内裏の方とみゆ。走かへりたれば応天門の上のなからばかりもえたるなりけり。この¹⁵ありつる人どもは、この火つくとてのぼりたりけるなりと心えてあれども、人の¹⁶きはめたる大事なれば、あへて口よりほかにいささず。そのゝち左のおとゝのし給へることとて罪かうぶり給べしといひのゝしる。あはれしたる人のある物を¹⁷いみじきことかなとおもへど、いひいさすべきことならねば¹⁸いとおしと¹⁹思ひありくに、おとゝゆるされぬときけば、つみなきことはつるにのがるゝものなりけりとなんおもひける。かくて九月ばかりになりぬ。かゝるほどに、伴大納言の²⁰出納の家のおさなき子と、との舎人が小童といさかひをして、出納のゝればいひでゝ²¹とりさへむとするに、この出納おなじくいでゝみるに、よりてひきはなちてわが子をば家に入れて、この舎人が子の髪を取てうちふせてしぬばかりふむ。舎人おもふやう、わが子も人の子ともに童部いさかひなり。たゞさではあらで。我子を²²しもかく²³なさせなくふむはいとあしき事なりとはらたゞしうて、²⁴まうとはいかでなさせなくおさなきものをかくはするぞといへば、出納いふやう、²⁵おれは何事いふぞ、とねり²⁶だつるおればかりのおほやけ人をわがうちたらんに、なにごとのあるべきぞ。わが君大納言殿のおはしませばいみじきあやまちをしたりとも、なにごとのいでくべきぞ。しれ事いふ²⁷かたいかなといふに、舎人おほきにはら立て、おれはなにごといふぞ。わが²⁸しうの大納言を²⁹かうけにおもふか。をのがしうは我口によりて³⁰人にてもおはするはしらぬか。わが口あけてはをのがしうは人にてはありなんやといひければ、出納ははらだち³¹さして家にはい入にけり。このいさかひをみると、³²里となりの人市をなしてきゝければ、いかにいふことにかあらんと思て、あるは妻子にかたり、あるはつぎつぎかたりちらしていひきはぎければ、世にひろごりておほやけまできこしめて、舎人をめしてとはれければ、はじめはあらがひけれども、われも罪かうぶりぬべくといひければ、ありのくだりのことを申てけり。そのゝち大納言もとはれなどして、ことあらはれての後なん流されける。応天門を焼てまことの大臣におほせて、かのおとゝをつみせさせて、一の大納言なれば大臣にならんとかまへけることの、かへりてわが身つみせられけん。いかにくやしかりけん。

(注)①大やけ＝国家 ②おとゝ＝大臣
③烏帽子直衣＝公卿の略装 ④ことやう＝異様
⑤一定なし＝確かではない
⑥よごま＝道理に合わないこと、非道
⑦日の装束＝東帯、公卿の正装
⑧あらごも＝あらく編んだむしろ
⑨ひとと家＝家中 ⑩なきのゝしる＝泣き騒ぐ
⑪かゝぐる＝つかまる ⑫雑色＝下級の召使い
⑬心も得ず＝よくわからない ⑭ざま(さま)＝その方向
⑮ありつる＝先ほどの、さっきの
⑯きはめたる＝この上もない、はなはだしい
⑰いみじき＝はなはだしい、おそろしい

⑱いとおし＝気の毒だ ⑲思ひあり(歩)く＝思い続ける
⑳出納＝物の出し入れをする係
㉑取りさふ＝なだめる、仲裁する ㉒しも＝～にかぎって
㉓なさせなし＝思いやがない ㉔まうと(真人)＝おまえ
㉕おれ＝きさま、おまえ
㉖だつ＝～のような様子、～のような状態
㉗かたい＝物知らず、ばか者 ㉘しう＝主
㉙かうけ＝高家、権勢のある家 ㉚人にて＝人並みに
㉛さず＝差しつかえる ㉜里となり＝近隣

1 ③次の文章は徳川吉宗を賞賛する目的で磯野政武が著わした吉宗の言行録『仰高録』のなかから、災害とその影響に関する箇条を抜粋したものである。この文章の概要を四〇〇字程度にまとめ、江戸時代の災害と幕府の対応について、史実を踏まえてあなたの考えを四〇〇字程度で記しなさい(全体で八〇〇字を超えないこと)。

一 享保十七年壬子歳、西国・四国・中国筋作物虫附諸人飢饉に及び、右御教に付、殊の外の御世話有之、御手当数多の事の由、就夫京大坂の町人とも、各相応の金銀米穀を私にこれを出して国々の飢人を救候事 夥 敷 事也、依之右施行⁽¹⁾せしものとの名、彼是を於大坂記録ヲ印行して仁風一覽と題したる書一二帖かと覚へし一入上覽、翦春羅紙を以て被摺之、 禁裏・日光山へ 御進献有之候、此頃下説⁽²⁾に大坂より出候御金米夥敷事にて都て御教の御手当宜、於御領⁽³⁾ハ餓死無之、諸大名領分にハ不埒なるも有之て御叱有之御取沙汰候ひし、将又大坂にて鴻池屋・大和屋など申富家の町人、右施行に出候米金の事夥敷よしに候へとも、いかやうに尋候ても曾て不申わさ⁽⁴⁾と名をも隠し候由也、右に付万石以下領知損耗の面々へハ拝借金 被 仰付旨、同年十月御書付出候事

一 享保十八年の春ハ米穀高直になりて江戸町方懸る者あり、其頃大名へ被 仰付、御堀浚有之人数価を得て悦候事、此頃下拙の説に御代に成万端 御世話有之事とゝのはすといふ事なく、末々まで御惠恩の 御心配 忝 御事なるに所々の御堀基理り有之、浚の御沙汰も無之事、皆不審の様に申せし、兼て箇様の節と被 思食候哉などゝ下愚のやからも益感伏申あへりし、

一 寛保二壬戌年八月雨降続、関八州大水一信州浅間山半腹より湧出、武州秩父三国峠等よりも水湧と云一鬼怒川・利根川・葛西筋、都而川々堤流込、民家漂流、葛西本庄⁽⁵⁾辺も出水簷に及び、又は流出の家もあり、みな屋の棟に昼夜上り居て啼叫、或我家を流して他の家を便に流寄るも有之たるよし、時に御船手⁽⁶⁾、或町舟迄も御雇、数艘を出して、此等の人を救はしめ、或粥をあたへ、焼飯を配り、或湯茶を遣して、これを扶助をさせ、又ハ米を施行をさせ給ふ所もあり、彼等御哀愍⁽⁷⁾の御世話、御城より両国橋辺へ馬をハしらしめて、兎角の御事、不大方候⁽⁸⁾、依之河付の屋敷へ富る町家共も私に舟を出し、食を運び米を送りて流民を助、餓を養ふ、士農商幾何人の命を介る也⁽⁹⁾、其後本庄筋御旗本軽き御家人迄拝借金被 仰付、且後日所々川除堤築立らるゝに大名御手伝も被 仰出、人足に出る土民とも賃銭を得て愁民うるほへり、

(注) (1)施行 ほどこしを行なうこと。
(2)下説 世間一般の人々が言うこと。
(3)御領 江戸幕府直轄領。
(4)わさ 習慣化した行為。
(5)本庄 本所。現在の東京都墨田区の一部。
(6)船手 幕府の水軍。
(7)哀愍 あわれむこと。
(8)不大方候 非常のことである。
(9)幾何人の命を介る也 どれだけ人の命を助けただろう。

1 ④次の文章は、中国・唐～北宋時代の政治体制について述べた清・趙翼『廿二史劄記』巻二十の一部である(省略した部分があるが、「中略」等の表示は省いた。また、常用漢字に改めている)。その概要を四〇〇字程度で述べなさい。またこの記事をふまえ、北宋時代の文治主義の体制とその歴史的背景について、三〇〇～四〇〇字程度で説明しなさい(全体で八〇〇字を超えないこと)。

之 内 力 普 知 原 天 則 往 掉 武 者 幾 唐
功 有 薄 之 州 禍 下 含 往 之 官 皆 覆 唐
何 流 不 計 事 始 尽 羞 自 勢 悉 除 天 之
可 寇 足 慮 歷 皆 分 忍 扱 或 自 節 下 官
輕 則 以 深 代 由 裂 恥 將 父 置 度 及 制
議 民 自 矣 因 於 於 因 吏 死 署 使 安 莫
也 得 強 而 之 節 方 而 号 子 未 大 史 不
安 而 議 遂 度 鎮 撫 為 握 嘗 者 既 善
耕 不 者 無 使 而 之 留 其 請 連 平 於
牧 知 徒 復 掌 朱 姑 後 兵 命 州 武 節
不 消 謂 弱 兵 全 息 以 而 於 十 夫 度
至 患 宋 幹 民 忠 愈 邀 不 朝 数 戰 使
常 於 之 強 之 遂 甚 命 肯 力 小 將 安
罹 未 弱 枝 權 以 方 於 代 大 者 以 祿
兵 萌 由 之 故 梁 鎮 朝 或 勢 猶 功 山
革 苟 此 患 也 兵 愈 天 取 盛 兼 起 以
之 非 是 宋 自 移 驕 子 舍 遂 三 行 節
苦 外 但 太 宋 唐 迨 力 由 成 四 陣 度
其 有 知 祖 以 祚 至 不 於 尾 所 為 使
隱 強 禦 及 文 矣 末 能 士 大 属 侯 起
然 敵 侮 趙 臣 推 年 制 卒 不 文 王 兵

(注)○行陣一軍營。 ○為侯王一王や侯の爵位を得ること。
○除一任命すること。
○置署一任命すること。
○請命於朝一朝廷からの任命を受ける。
○尾大不掉一臣下の力が強くなり、君主が統御できなくなること。
○取舍一取捨に同じ。
○士卒一兵士。
○将吏一軍官。
○邀命於朝一朝廷に任命するよう要求する。
○含羞忍恥一侮りや辱めを受けても耐えること。
○撫一なだめ安んじて、手なずける。
○姑息一一時しのぎ。
○方鎮一藩鎮に同じ。
○唐祚一唐の天子(皇帝)の位。
○推原一おしはかる。
○禍始一わざわいの始まり。
○知州事一州の政治をつかさどる。
○宋太祖一北宋の初代皇帝・趙匡胤。
○趙普一北宋の開国の功臣。
○計慮一物事の処置について考えをめぐらすこと。
○禦侮一敵襲を防ぐ。
○未萌一まだ事のきざしが無い。
○流寇一多人数で徒党を組み、各地をわたり歩いて盗みや略奪を行うこと。
○罹一被る、遭う。
○隱然一ここでは、表面上には現れないところ、の意味。

2 この問題は、公募制自己推薦(AO型)入学試験受験者のみ解答すること。

國學院大學文学部史学科の公募制自己推薦(AO型)入試出願にあたって、あなたが提出したレポートについて、レポートの主題を示したうえで、調査内容と調査結果を簡潔に述べ、それを通じて学んだこと、発見したこと、またレポートをきっかけに今後調査研究してみたいと思ったことを、200字以内で記しなさい。

3 この問題は、院友子弟等特別選考入学試験受験者のみ解答すること。

あなたが國學院大學文学部史学科に入学した場合、特に研究したいと思う主題(歴史学・考古学・地域文化と景観分野のいずれか)を挙げ、その主題についてどのように研究したいと考えているか、自分の所見を200字以内で述べなさい。

文学部 哲学科

小論文

問 鷲田清一『じぶん・この不思議な存在』(講談社現代新書)を読んで、「じぶん」についての著者の主張の中からあなたが賛成する点や反対する点についてまとめ、その理由を具体例とともに論述せよ。(1000字程度)

経済学部

総合問題試験

次の文章は2022年1月の『日本経済新聞』に掲載された解説記事である。文章を読み、以下の問1～9に答えなさい。

※出典：2022年1月4日『日本経済新聞』朝刊15面に掲載されたものを元に一部改変。
(本文は著作権の関係で省略)

問1 本文中の空欄(1)と(2)に入る語または語句の組み合わせとして最も適切なものを以下のア～エから選びなさい。ただし、同じ番号の空欄には同じ語または語句が入る。
ア (1)アジア通貨危機 (2)新しい資本主義
イ (1)リーマン・ショック (2)新自由主義
ウ (1)リーマン・ショック (2)新しい資本主義
エ (1)アジア通貨危機 (2)新自由主義

問2 本文中の空欄【 A 】には、20世紀前半の日本における平均寿命の推移について図1から読み取れる内容が、当時の公衆衛生政策との関連性を軸に述べられている。文脈を考慮して、空欄【 A 】に入れるべき適切な文章を120文字以内で考えて書きなさい。

問3 下線部(3)に関連して、人口密度と下記の変数の相関関係はどのようになると本文は想定しているか。人口密度と負の相関関係になると想定されるものを以下のア～エから選びなさい。
ア 感染症の発生確率
イ 国内総生産に占める第一次産業比率
ウ 工業化の進展度合い
エ 所得水準

問4 本文中の空欄(4)に入る語として最も適切なものを以下のア～エから選びなさい。
ア 里山資本主義
イ 社会主義
ウ 修正資本主義
エ 構造主義

問5 本文中の空欄(5)に入る人名として最も適切なものを以下のア～エから選びなさい。
ア シュムペーター
イ マルサス
ウ スミス
エ マルクス

問6 本文中の空欄【 B 】には、「夜警国家」の特質について説明する内容が入る。空欄【 B 】に入れるべき適切な文章を40文字以内で考えて書きなさい。

問7 下線部(6)で「自助努力だけでは問題は解決できない」と筆者が述べているのはなぜか。本文の内容をふまえ、120文字以内で考えて書きなさい。

問8 本文中の空欄【 C 】には、戦後日本の税負担および社会保障負担の国民所得に占める割合の推移について図2から読み取れる内容が入る。文脈を考慮して、適切な文章を120文字以内で考えて書きなさい。

問9 下線部(7)に関連して、以下の設問①、②に解答しなさい。

- ① 筆者が「負担」に関する社会的合意を形成することが重要であると主張するのはなぜか。「高齢化」および「成長と分配」という2つの語句を必ず用いて、本文の内容を360文字以内で要約しなさい。答案を記述する際には、用いた語句には下線を付しなさい。
- ② 「成長と分配の好循環」を達成するために政府が行うべき所得再分配とはどのような内容であり、それは「成長と分配の好循環」にどのように貢献することが期待されるのか。あなたの考えを320文字以内で述べなさい。

人間開発学部

小論文

1 以下の文章を読み、後の問題1～問題2に答えなさい。

総務省が毎年発表している『情報通信白書』によると、2017年時点のスマートフォンの個人保有率は、13～19歳が79.5%、20代が94.5%、30代が91.7%に上っています(ちなみに調査対象である10代～60代全体では60.9%です)。つまり、10代～30代の子ども・若者世代の8割から9割が、自分のスマートフォンをもっていることになります。
2017年度版の同白書では、スマートフォンを介したSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の利用実態についても調査しています。経年比較が可能なSNSとして調査対象となっているのは、LINE、Facebook、Twitter、Mixi、Mobage、GREEの6つのサービスです。2016年時点で、これらのサービスのいずれかを利用している全世代の割合は71.2%に上っています。特に20代では97.7%と、ほぼ全員がいずれかのサービスを利用しています。SNSに明確な定義はありませんが、写真共有アプリケーションであるInstagramや、ショートムービー共有アプリケーションであるTikTokを調査対象に加えれば、SNSの利用率はさらに高くなることが予想されます。
このように、スマートフォンとSNSが日常生活において無くてはならない存在になったからこそ、「つながり孤独」を感じるひとが増えてきた、と

いわれています。あとで紹介する『友だち幻想——人と人の「つながり」を考える』という2008年に書かれた新書が、10年の時を経た2018年に、人づき合いの処方箋として各種メディアに取り上げられ、累計38万部を超える大ヒットとなったことから、人々が感じているつながり孤独の深刻さがうかがえます。

つながり孤独は、2018年7月25日に放送された「クロズアップ現代+」のテーマでした。つながり孤独の記事には次のように書かれています。

「SNSを使って友だちもいるのに、どうしようもなく“孤独”……」いま、若い世代を中心に、こうした“孤独感”に襲われ、学校や職場を辞めたり、ひきこもりがちになったりする人々がいる、ということがわかってきました。「孤立無援というわけではないけれど、なんだか“ひとりぼっち”」。私たちは、この気持ちを“つながり孤独”と名づけ、その実態を調べることにしました。

クロズアップ現代+のホームページには、番組のログが掲載されているので、興味があるひとは読んでみてください。番組には、FacebookやTwitterやInstagramといったSNSで自分以外の人々の幸せそうな姿をみて、羨望や、焦燥感や、孤独を感じてしまう人々が登場します。これがつながり孤独の一つの側面です。

もう一つの側面として語られるのが、「SNSでも現実の世界でも本音をいえない」という人間関係のあり方です。番組では、「現実世界の人間関係に失敗したからSNS世界に逃げることはできても、SNS世界で失敗したからといって現実の世界を頼りにすることはむずかしい」、という若者の言葉が紹介されていました。というのは、SNS世界では自分自身を隠して複数のアカウントを駆使したり、嫌になったらそのコミュニティから降りたりすることができますが、自分自身として生きている現実世界ではそうはいかないからです。そのため、多くの若者たちは、現実世界の人間関係で失敗しないように、周囲の人々に承認してもらえるように、細心の注意を払うのだといいます。しかし他方で、逃げ場でもあるSNS世界は、フォローワーや「いいね!」の数という形で、他者からの承認が可視化されるシビアナ世界でもあります。にもかかわらずSNSをやめられないのは、SNSを使うことがあたりまえになっていて、使わないことが逆に不自然になってしまうからだといえます。ここからみえてくるのは、現実世界の人間関係でも気をつかい、SNS世界でも承認を得るために本音がいえなくなってしまいう人々(若者)の姿です。

上述したように、人々は、SNS世界と現実の世界が交錯する中で、つながり孤独を感じています。「SNSでも現実の世界でも本音をいえないにもかかわらず、SNSをやめることができない」という現代の若者のあり方を、社会学者の土井隆義は、「つながり依存から派生する『つながり過剰症候群』」と呼んでいます。価値観が多様化した現在において、人々は、身近な「個別具体的な他者に依存することで、自分のポジションを安定させたい」と思うようになり、それが「つながり依存という形で、目に見えるものになったのだろう」、と土井は指摘しています。

こうしたつながり依存の関係においては、場の空気を読んでみんなと同じようにふるまうことを暗黙のうちに強制する、「同調圧力」がはたらいています。みんながLINEに即レスするから、みんながSNSに「いいね!」を押すから、みんなが空気を読んだ会話を続けるから、私もそうしなければならぬ、というのが同調圧力です。先に紹介した『友だち幻想』の著者である社会学者の菅野仁は、こうした関係においてははたらいている同調圧力の理由を次のように述べています。すなわち、情報と価値観の多様化によって感じざるをえない不安から逃れるために、私たちが無意識的に群れようとする(「みんなと同じ」という同質性の重視)が、同調圧力を生み出している、と。

現代のこうした傾向に警鐘を鳴らす菅野は、同質性の重視ではなく、他者の他者性を前提とした、異質者同士が同時に存在する「並存性の重視」を提案しています。並存性の重視とは、「気の合わない人間、あまり自分が好ましいと思わない人間……そういう人たちとも『並存』『共存』できること」、といいかえられています。具体的には、自分の意に沿わない人々とかかわらざるをえない場合に、反発したり、攻撃したりするのではなく、「同じ空間にいてもなるべくお互い距離を置く」ことが提案されています。

(遠藤野ゆり氏・大塚類氏『さらにあたりまえを疑え! 臨床教育学2』)

過去問題 学士入学・一般編入学

問1 （30点）
文章では若者のSNS利用についての問題点や今後の課題についてどのように述べられているか、300字程度で述べなさい。

問2 （70点）
ほぼ全ての若者がSNSを使用している現代的課題について本文で述べられていることを踏まえ、「つながり孤独」「並存性の重視」の2つの言葉を用いて、SNSと共存していくために必要な留意点について、自身の経験も合わせて700字程度で論じなさい。

過去問題 学士入学・一般編入学

令和6年度 神道・宗教特別選考 (I期)

神道文化学部

小論文
問一 （神道特別選考受験者のみ解答すること）
次の文章を読み、要旨を二〇〇字程度にまとめた上で、日本列島の人々が各地で神社をまつてきた理由や背景について、自分の考えを八〇〇字程度で述べ、全体で一〇〇〇字程度となるように記しなさい。

全国のいたるところに鎮守の森があり、地域の人々に手厚くまつられている。これらの神社は、いったいつ頃から、誰によってまつりはじめられ、今日にいったのであろうか。その答は一概にとても語ることはできないが、不思議なことに、北海道から九州沖縄まで神社（鎮守の森）があり、その土地の人々に篤い信仰を育んでいる。神社はわたしたち日本人と密接不可分の存在であるが、あまりに身近なために、その存在の意味を忘れがちである。神社は、私たちにとって、どのような意味があるのか。そのことをまず考えてみたい。

そこで、比較的歴史の新しい北海道の神社を例に具体的にみていくことにしたい。札幌市厚別区に信濃神社が鎮座している。手元にある『北海道神社庁誌』（平成十一年）によれば、この神社は、「長野県の上諏訪地方出身である河西由造ほか三十戸の入植者が当地の開墾に励んだが、明治十五年に故郷の諏訪大社より御分霊を奉戴し、心のよるところとして、小さな祠を建てたのがはじまりである」と記している。その後、明治三十年になり前述の河西氏ほかの世話人によって立派な社殿が建設された。昭和六十三年は、御鎮座いらい九十年にあたり、あらためて氏子の代表者が長野県の諏訪大社へ参拝し、本社とのつながりをより強固なものにした。氏子は現在五千世帯あり、地域の鎮守の神々として、隣接の信濃小学校、信濃公園とともにゆるぎない姿を示している。まるで何百年も前から鎮座しているかのようである。

しかし、この信濃神社と当地区の歴史は約百年である。遠く長野県から入植し開拓にあたった人々が、原野を田畑にして生活の基盤を確立し、厳しい自然環境の中で一年一年と年月を重ねて今日にいったものである。なにもなかった原野に小さな祠を建立し、神の御加護のもとに、豊かな生活と安全な暮しを必死に祈って、今日を迎えたのである。信濃神社にまつられた神々に見守られて当地区の発展があったのである。北海道には、「切株神社」という言葉がある。原野を開墾した時に大きな切株に神々をまつり、入植者の御加護を祈ったという。神社の原形である。信濃神社の最初の姿もおそらく同様なものであったであろう。次に、江戸時代に創建された神社の例をみてみよう。徳川家康公が上方へ上った時期に摂州（大阪）佃村の漁民に世話になり、そののち、佃村の漁民は、徳川家の密使や御膳の魚を奉ることが例となっていた。そのような縁から、家康公は江戸の幕府を開くや、佃村の漁民を江戸に召し、江戸湾に浮かぶ小島（これを佃島と命名）を賜り、白魚を奉らせることにした。住吉神社はその漁民たちが、故郷の住吉神社を勧請したものであった。『江戸名所図会』に「正保年間摂州佃の漁民に、初めてこの地を賜りしよりここに移り住む、本国の産土神なる故に分社してここにも住吉の宮居を建立せしとなり」とみえている。この場合も住民の移動が神々の分社をうながしている。日本列島の歴史は、一面に開拓の歴史であった。日本各地で利用できる国土は、可能

なかぎり新田として開拓されて行った。古代律令国家の時代から墾田永年私財法ではないが、新しい田や畑を作りだすことで、より豊かな生活を形成してきたのである。新しい土地には必ず守護神をまつた。それは必ず力の強い神であったり、身近な神であったりしたのであった。大方の神社はこのように分社され、各地にまつられることになった。（茂木貞純氏の文章に基づく）

問二 （宗教特別選考受験者のみ解答すること）
次の文章は太宰治が昭和十五年に書いた文章です。要旨を二〇〇字程度にまとめた上で、現代の日本人の死生観について自分の考えを八〇〇字程度で述べなさい(全体で一〇〇〇字程度)。

六つ七つになると思い出もはつきりしている。私がたけという女中から本を読むことを教えられ二人で様々の本を読み合った。たけは私の教育に夢中であった。私は病身だったので、寝ながらたくさん本を読んだ。読む本がなくなればたけは村の日曜学校などから子供の本をどしどし借りて来て私に読ませた。私は黙読することを覚えていたので、いくら本を読んでも疲れないのだ。たけは又、私に道徳を教えた。お寺へ屢々連れて行って、地獄極楽の御絵掛地を見せて説明した。火を放けた人は赤い火のめらめら燃えている籠を背負わされ、めかけ持った人は二つの首のある青い蛇にからだを巻かれて、せつながっていた。血の池や、針の山や、無間奈落という白い煙のたちこめた底知れぬ深い穴や、到るところで、蒼白く瘦せたひとたちが口を小さくあけて泣き叫んでいた。嘘を吐けば地獄へ行ってこのように鬼のために舌を抜かれるのだ、と聞かされたときには恐ろしくて泣き出した。

そのお寺の裏は小高い墓地になっていて、山吹かなにかの生垣に沿うてたくさん卒堵婆が林のように立っていた。卒堵婆には、満月ほどの大きさで車のような黒い鉄の輪のついているのがあって、その輪をからから廻して、やがて、そのまま止ってじっと動かないならその廻した人は極楽へ行き、一旦とまりそうになってから、又からんと逆に廻れば地獄へ落ちる、とたけは言った。たけが廻すと、いい音をたててひとしきり廻って、かならずひっそりと止るのだけれど、私が廻すと後戻ることがたまたまあるのだ。秋のころと記憶するが、私がひとりでお寺へ行ってその金輪のどれを廻して見ても皆言い合せたようにからんからんと逆廻りした日があったのである。私は破れかけるかんしゃくだまを抑えつつ何十回となく執拗に廻しつづけた。日が暮れかけて来たので、私は絶望してその墓地から立ち去った。

（太宰治「思い出」に拠る）

過去問題 学士入学・一般編入学

令和6年度 学士入学・一般編入学

文学部 日本文学科

専門科目
次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

六条修理大夫顕季卿、東のかたに知行のところありけり。館の三郎義光、妨げ争ひけり。大夫の理ありければ、院に申し給ふ。「^(a)左右なく、かれが妨げをとどめらるべし」と思はれけるに、^(b)とみにこときざりければ、心もとなく思はれけり。院に参り給へりけるに、閑かなりける時、近く召し寄せて、「汝が訴へ申す東国の庄の事、今まで、こときらねば、くちをしとや思ふ」と仰せられければ、かしこまり給へりけるに、たびたび問はせ給へば、わが理ある由をほのめかし申されけるを、聞こしめして、「申すところは、いはれたれども、わが思ふは、^(ア)かれを去りて、^(イ)かれに取らせよかし」と仰せられければ、思はずに^(c)あやしと思ひて、とばかりものも申さで候ひければ、「顕季が身には、かしこなしとでも、ことかくまじ。国もあり、官もあり。いはば、この所いくばくならず。義光はかれに命をかけたる由、申す。かれがいとほしきにあらず。顕季がいとほしきなり。義光はえびすのやうなるもの、心もなきものなり。やすからず思はむまみに、夜、夜中にもあれ、大路通るにても

あれ、いかなるわざはひをせむと思ひ立ちなば、⁽¹⁾おのれがため、ゆゆしき大事にはあらずや。身のともかくもならむも、さることにて、心憂きためしにいはるべきなり。⁽²⁾理にまかせていはむにも、思ふ、憎むのけぢめを分けて定めむにも、かたがた沙汰に及ばむほどのことなれども、これを思ふに、今までこときらぬなり」と、仰せごとありければ、顕季、かしこまり悦びて、涙を落して出でにけり。

家に行き着くやおそき、義光を「聞こゆべきことあり」とて、呼び寄せければ、「人まどはさむとし給ふ殿の、なにごとに呼び給ふ」といひながら、参りたりければ、出で会ひて、「かの庄のこと申さむとて、案内いはせ侍りつるなり。このこと、理のいたるところは、申し侍りしかども、よくよく思ひ給ふれば、わがためは、これなくとでも、ことかくべきことなし。そこには、⁽³⁾これを頼むとあれば、まこと不便なりと申さむとて、⁽⁴⁾聞こえつるなり」とて、去る文を書きてとらせられければ、義光かしこまりて、侍に立ち寄りて、畳紙に二字書きて、奉りて出でにけり。

そののち、⁽⁶⁾つきつきしく昼など参り仕ふることはなかりけれども、よろづのありきには、なにと聞こえけむ、思ひよらず、人も知らぬ時も、甞着たるものの、五六人なきたびはなかりけり。「たれそ」と問はすれば、「館刑部殿の随兵に侍り」といひて、いづくにも身を離れざりけり。これを聞くにつけても、⁽⁴⁾悪しく思はましかばと、胸つぶれて、院の御思かたじけなく思ひ知らるるにつけても、「かしくぞ去りて与へける」と申されける。かかるためしを聞くにも、⁽⁵⁾頼めてむ人は、⁽⁶⁾一旦つらきことなどありとも、恨みを先立てずして、そのはからひをめぐらすべしとなり。（『十訓抄』）

(注)○妨げ争ひけり―暴力を用いて無法に物を奪った。
○院―白河上皇。
○こときざりければ―決着がつかなかったので。
○庄―荘園。
○去文―所有権を譲る証文。
○侍―侍所。警固の武士の詰所。
○畳紙に二字書きて、奉りて―実名を記した名簿を提出したことから、顕季に服属したことを示す。二字は実名のこと。

問一 傍線部(a)・(b)・(c)・(d)・(e)を現代語訳しなさい。

問二 二重傍線部ア・イの「かれ」は何を示すか、それぞれ最も適切な語句を本文中から二字以内で抜き出しなさい。

問三 傍線部(1)を現代語訳しなさい。

問四 傍線部(2)の内容を簡潔に説明しなさい。

問五 傍線部(3)の「これ」は何を示すかを、記しなさい。

問六 傍線部(4)「悪しく思はましかば」に続く内容を具体的に説明しなさい。

問七 傍線部(5)を品詞分解し、各語について文法的な説明をしなさい。【例】思は(動詞・ハ行四段・未然形)ず(助動詞・打消・終止形)

問八 傍線部(6)はどういうことか。本文の内容に即しながら二〇〇字以内で具体的に説明しなさい。

過去問題 学士入学・一般編入学

文学部 史学科

専門科目
問題 次の1～6の中から2つを選んでそれぞれ1200字以内で説明しなさい。解答は別紙解答用紙に記入すること。選択番号を記入のうえ、解答用紙1枚に1問を解答し、2枚を提出すること。(各50点)

- 縄文・弥生・古墳時代におけるものづくりの技術革新を5つあげ、時代の古い順に説明しなさい。
- 古代日本の律令制下における民衆支配の展開
- 戦前日本における政党政治の成立・定着・崩壊過程
- 中国における紙の生産とその歴史的展開
- 16世紀から18世紀にいたる大西洋貿易の構造転換
- 河川が作り出す小地形の種類とその性質、土地利用の特徴

過去問題 学士入学・一般編入学

文学部 哲学科

専門科目

問1 次のA、Bいずれかを選び、500～600字で論じなさい。
A 死の無い世界は願望の対象か、それとも恐怖の対象か。この問いに対するあなたの考えを述べなさい。

B 世界各地の神話をはじめとして人類は太古より物語をつくりだしてきたが、その物語は口頭で語られたばかりでなく、ときには文字によって、またときには絵画によっても伝えられてきた。口頭、文字、絵画による物語表現のあいだにはどのような違いがあるか、具体例を挙げながら、あなたの見解を述べなさい。

問2 次の項目のうち、2つを選び、それぞれ120～200字で説明しなさい。

- 汎神論
- アイデンティティ
- 出家
- パロック
- ジャポニズムとシノワズリー
- 北斎

過去問題 学士入学・一般編入学

神道文化学部

小論文
問 次の文章を二〇〇字程度で要約しうえて、筆者が論じる「日本の神・靈魂に対するまつり」について自身の意見を八〇〇字程度で述べなさい(全体で一〇〇〇字程度)。

二十一世紀を迎えた現在の日本でも多くの人々は、人間を超越する存在の「神・仏」をどこかで信じ、死者や祖先の「靈魂」を少なからず意識して生きている。それは、コンピューターや携帯電話など最先端の技術を駆使する現代の若者においても変わらないようだ。一九九五年から二〇一五年にかけて、若者の宗教意識に関するアンケート調査が行われた。調査対象となったのは国公立を含む大学に在籍する大学生である。大学の数は年度によって異なるが、平均で三九校、延べ六万六〇〇二人からの有効回答を得ている。現代の若者が神仏や靈魂について如何に考え、それらと係わる儀礼・行事をどのように感じているのか、一定の傾向を示していると考えられる。さらに、若者が対象であるため、今後の日本が進むだろう宗教の方向性を示しているといってもよい(國學院大學日本文化研究所編、二〇一八)。このなかで、まず、「神は存在するのか」という問いに、「信じる」「あり得ると思う」との回答は、全体の平均で五一・六％。「あまり信じない」「否定する」との回答を上回っている。死者の靈魂については、「信じる」「あり得る」の回答が六二・九八％を占める。さまざまな通信技術が発達し多様な情報が溢れる現代においてさえ若者たちの多くは、神や祖先・死者の靈魂の存在を信じ、少なくとも意識して日々生活しているこ

とになる。

しかし、その一方で、日本列島で古代から中世への歴史の流れを見ただけでも、神・靈魂の考え方、イメージはさまぎまであり、時代ごとに変化した。それは、『古事記』『日本書紀』(以下、「記紀」)が語る人間的な古代神話の神々であり、古墳や陵墓・墳墓に鎮まり子孫を加護し、時には怒り祟る祖先・死者の御魂でもある。また、非業の死を遂げ災害・疫病を引き起こす御霊であり、仏・菩薩の仮の姿として説明される神々でもあった。

このような神々・靈魂に対して人間が決まった作法(儀礼)で働きかけ、希望を伝え願い祈ること。それが「まつり」(祭祀・祭礼)である。どのような神々・靈魂に何を願い祈るのかは、日本列島の自然環境が密接に関係してくる。日本列島は、北半球の温帯にあり、加えて、太平洋のプレートが大陸のプレートを押し上げ沈み込む部分にできた島々の集まりである。だから、海に面して二、三〇〇〇メートル級の山岳が急峻、山岳にぶつかった雲は多量の雨雪を降らせる。この雨雪の水は、急峻な山岳から急勾配の河川を下り海へと流れ込む。こういう日本列島の自然環境では、他の地域に比べて自然の「恵み」と「災い」が極端に増幅されて現れるとってよいだろう。このような恵みと災いの背後に、我々の祖先は神・靈魂の存在をみたのである。

なかでも自然災害は、近年の例だけを挙げても雲仙普賢岳や木曾御嶽山の噴火、東日本大震災、そして毎年のように発生する洪水・台風と枚挙にいとまがない。春夏秋冬の四季が明確で、それぞれに豊かな恵みが得られる反面、洪水、台風、地震に火山噴火と世界的に見ても災害が集中する。さらに、古代以来、自然災害とともに疫病(感染症)が流行し、人々を苦しめてきた。大規模な台風・洪水が頻発し、新型コロナウイルスの蔓延に苦しむ現代のわれわれの生活は、この歴史の延長線上にあるとってよい。

日本の神・靈魂の考え方と「まつり」は、この日本列島の自然環境のなかで生まれ、特に災害との関係のなかで、つぎつぎに新しい要素を加え変化してきた。

その典型例が、平安時代の九世紀後半、貞観五年(八六三)五月二十日に平安京の神泉苑(天皇の庭園)で行われた御霊会である。古代の正史『日本三代実録』によると、このころ、疫病が頻りに流行し多くの人々が死亡した。多数の人間が集住する平安京の都市空間で感染症が蔓延し、深刻な被害が発生していたのである。令和四年(二〇二二)の現代に通じるところがある。天下の人々は、この災いの原因を「御霊」の仕業だと考えたという。ここに登場する「御霊」とは、崇道天皇(早良親王)、伊予親王、藤原夫人(吉子)、観察使(藤原仲成カ)、橘逸勢、文室宮田麻呂の六人である。いずれも朝廷への謀反の疑いをかけられたり、宮中での政争に敗れたりして非業の死をとげた人物である。当時の人々は、非業の死から、彼らの怨みを連想し、その怨みが災害(疫病の蔓延)を発生させ、多くの犠牲者が出たと考えた。

そこで、御霊の怨みを慰め疫病の鎮静化を願い、古代の祭祀としては特異な神まつり「御霊会」が行われたのである。御霊六人の「霊座」を設け花や菓子を供え、御霊のために僧が金光明經と般若心経の内容を説いた。そして、御霊を慰めるため、朝廷の雅楽寮の伶人(楽の演奏者)は楽を奏し天皇近侍の児童と良家の子供が舞い、さらに散楽(曲芸などの雑芸)は技を競ったという。天皇は神泉苑を開放し、京の人々が縦覧(見物)するのを許した。貞観五年の御霊会の特徴は、舞楽・散楽といった芸能の要素を含む「まつり」を朝廷が主導して大規模に実施し、都の人々が参加し見物した点にある。この「まつり」の形は、続く十世紀になると、さらに大きく新しい展開を見せるようになる。

(笹生衛氏の文章に基づく)

法学部

教養科目

問題
次の文章は、David Millerの“Comparative and non-comparative desert”という論考の一部である(文意を損なわない程度に文章の一部を省略し、改行を挿入した)。この論考は

「値する」とはどういうことかについて論じている。この文章を読み、問1から問5に答えなさい。(本文は著作権の関係で省略)

問1
下線部(1)について、筆者はどのような考え方をclearly falseと述べているのか。本文に即して日本語で答えなさい。

問2
下線部(2)について、筆者がgenuine cases of desertと述べているのは、具体的にはどのような例か。本文中より1つ見つけて日本語で答えなさい。

問3
下線部(3)を日本語に翻訳しなさい。

問4
下線部(4)について、筆者の考えるprimary desert judgementsとはどのようなものか。本文に即して日本語で答えなさい。

問5
下線部(5)について、the desert basisとは具体的に何か。本文に即して日本語で答えなさい。

経済学部

総合問題試験

公募制自己推薦(AO型)・院友子弟等特別選考(P3-4)の問題に準ずる。

令和6年度 外国人留学生

文学部・神道文化学部

日本語小論文

問
次の文章を読んで、筆者が述べている「数字による評価」と「コミュニケーション」の関係について説明しなさい。その際、あなたの考える具体的な例を挙げて論述すること。

ただし、次の条件を守ること。
一、三段落または四段落にすること。
二、文章は「～である。」「～だ。」調で統一すること。
三、字数は九〇〇字以上、一〇〇〇字以内 to すること。

数字による評価は両刃の剣だ。ある内実があって、それが数字として表現される、そしてそのフィードバックによって内実がますます改善されていくというのならばそれは豊かな現実をもたらすものとなる。しかし、数字さえ取ればいいのだ、数字こそが目標なのだとなってしまう、私たちはむしろ生きることの豊かさを数字に明け渡すことになってしまう。

数字にはさらに大きな危険性が潜んでいる。それは数字の「分かりやすさ」から起こる問題だ。数字による評価がなければ、私たちの生活はどれだけ曖昧で、分かりにくいものになっていることだろうか。しかし、「曖昧さがなく、分かりやすい」ことによって、犠牲になっているものがある。それは「人と人との間のコミュニケーション」だ。そして、「世界が多様なものであること」の感覚である。

数字は分かりやすい。数字を「出発点」として捉えるのではなく、数字を「結論」としてしまえば、そこには議論の余地がない。数字の大小で優劣が決まってしまう。だから数字で語れば、人と人との間で議論をする必要がない。つまり、コミュニケーションの必要がないのだ。

そして、数字で語れば頭を、感性を使わなくてもいい。数学六〇点と聞けば、「八〇点を目指せ」と言っておけばいいし、視聴率競争では「この前負けた視聴率を取り戻せ!」とはっぱをかければいい。特に自分の頭と感性を使わず、決まり切ったことを言っておけばいいのだ。

そういう社会とはいかなる社会だろうか。それは〈様々な価値観、「生きる意味」を持った人たちの多様な意味づけの中で、互いに話し合いながら合意を形成していく)のではなく、「生きる意味」を捨象して、横断的に通用する「数字」で物事を解決しようとする)ような社会だ。ひとりひとりが固有な「生きる意味」の世界を生きていることに配慮が払われず、効率的な「数字」がひとり歩きしていく。

「数字信仰」は私たちの「コミュニケーション」を犠牲にする。私たちの社会で交わされるコミュニケーションはとてつもなく薄っぺらいものとなっていく。

それはいま地球上で起こっている問題でもある。世界には様々な文化があり、ひとつひとつは固有の世界観を持っている。またひとつの文化の中でも、ひとりひとりが異なるものの感じ方、考え方を持っている。そうした「多様性」があるからこそ、私たちは他者の世界を理解しながらコミュニケーションを行う必要があるし、それは私たちの「生きる意味」の世界を豊かにしていくものである。

ところがその反面、そうした多様性は、効率性の悪いシステムであると言える。相手の文化的な背景を理解し、「生きる意味」のありかを理解しようとしていては、コミュニケーションの効率性は良くない。そこには様々な誤解や齟齬が当然生じてくるし、そこを乗り越えていくには時間がかかるのだ。私のような文化人類学者にとっては、そうした誤解や齟齬こそがまさに私たちのそれまでの思い込みを破壊し、新たな認識を深めていくいいチャンスとなるが、しかしそういったコミュニケーションのあり方に苛立つ人たちもいる。

世界が多様な文化によって成り立っていることによる非効率性、それを解決するのが「数字信仰」に他ならない。

(上田紀行氏の文章に基づく)

法学部

日本語小論文

問題
次の文章を読んで、問1から問3までの設問に答えなさい。(本文は著作権の関係で省略)

問1
下線部(a)に関し、この「誰ももない者の支配」とはどのようなものか、200字程度で説明しなさい。

問2
下線部(b)に関し、日本の官僚制における「官は無謬」について、300字程度で説明しなさい。

問3
下線部(c)に関し、こうした筆者の主張について説明したうえで、この主張についてあなたの意見を400字程度で述べなさい。

令和6年度 神道学専攻科

国語総合

次の文章を読んで、後の問一〜七に答えなさい。

(本文は著作権の関係で省略)

問一
この文章の要約を、「氏神」と「血族」と「地域」という語句を用い(用いた語句には右線を引くこと)、二四〇字以上三〇〇字以内で解答欄に記入しなさい。

問二
文中から読み取れる、下線部(一)に対する筆者の考えとして最もふさわしいものを、次のア〜エの中から一つ選び、解答欄に冒頭の記号を記入しなさい。

ア 伝統を継承する集団であることが必要不可欠な前提である。
イ 伝統・言葉・風習の共通性は意識を失わせるきっかけになる。

ウ 意識を持つようになるきっかけは血縁だけでない。
エ 現代の日本人の意識と同じである。

問三
下線部(二)の語義を解答欄に一五字以上二五字以内で記入しなさい。

問四
下線部(三)の語義と、漢字表記を解答欄に記入しなさい。

問五
文中から読み取れる、下線部四)に対する筆者の考えとして最もふさわしいものを、次のア〜エの中から一つ選び、解答欄に冒頭の記号を記入しなさい。

ア 氏族の繁栄目的だけでなく、国家的理念に基づく寺院も建立された。

イ はじめのころ盛んであった信仰に、氏族繁栄の要素はなかった。

ウ 氏族の居住地に氏寺が建立された例は少ない。
エ どの時代でも、個人単位の信仰が日本の仏教の主流であった。

問六
下線部(五)の読みをひらがなで解答欄に記入しなさい。

問七
筆者は、問題文に続く箇所で、より原初的な、生活に密接に関係した信仰の存在について触れている。現代の地域社会における日々の生活と神社との関係について、自らの意見を五四〇字以上六〇〇字以内で解答欄に記入しなさい。

令和5年度 神道学専攻科

国語総合

次の文章を読んで、後の問一〜七に答えなさい。

単に神社が残ったということだけを捉えて「*やはり神道は⁽¹⁾言挙げしないのが相応しい」ということを読んで覚えていた人がいるとします。ある神主さんが「神道とはこういうものだ」「神道とはこうですよ」と言うと、「司馬遼太郎が確か神道は言挙げしないと書いていたけれども、口うるさいおせっかいな神主さんですね。神道はあまりごちゃごちゃ言わないほうがいいんじゃないですか」と言われたら、皆さん方「そうですね、神道は昔から言挙げしないと云ってますし」と答えますか。じゃあ聞きますが、そもそも神道は言挙げしないと誰が言い出したんですか。だって現実には何々神道というのは一杯言挙げしてきましたよ。例えば、(略)次々と色々な仏教的立場から神道を説いてきた。で、その帰結が本地垂迹説。ついで鎌倉時代から室町時代にかけて伊勢の、特に外宮を中心とした神主さんたちが色々なことを説いてきた伊勢神道。その結果が神道五部書です。それからここ京都の吉田神社の卜部(吉田)兼俱が、唯一神道を唱える。これが江戸時代に入ると、山崎闇斎が儒教の朱子学をもとに日本書紀や、そういう神々のことを考えて垂加神道を唱えた。これも言葉として思想化する。全部言挙げしています。

その後出てきた国学者の本居宣長、平田篤胤にしても「神道は言挙げしない方がいいんだ」と言ったのなら、彼らは神道に対して何も発言していないのかというと、そうではなくたくさん喋っている。もともと宣長が、言挙げしていないというのは「日本には何々の道という思想はないんだ。だから神の道といっても、仏道とか儒道とかいった意味での道ではないんだ。つまり、⁽²⁾おのづからなるままの、ある目的地があったらそこへ行く単なる道としか意味しないんだ。それが神々の道なんだ。神のまにまになんだ」というようなことを言った。それも彼自身の説明です。彼が批判したのは、垂加神道であるとか仏教的な神道が、色々とかくく仏教の立場や儒教の立場から、日本書紀や神のことを解釈するから、そういうものはずもとなかったんだという意味で言ったわけです。⁽³⁾そうじゃないんだということを説明するためにやはり言葉が必要です。彼が神道は言挙げしないと云ったのはそういう意味なんです。神道は言挙げしてはいけない、すべ

過去問題 神道学専攻科

きではないという意味ではなくて本来言挙げしなくてもあったものが神道なんだ、神の道なんだ。ところがそれが一人歩きして神道というものは何も喋る必要がないし、ただお祭りをしている、境内を掃き清めている、それだけでいいんだ。それによって自然と氏子崇敬者が頭からひれ伏し浄化されるんだ、とだけ理解される。確かにそういう面も非常に大事な面です。本質的な面もあります。しかし何か問われる、あるいは何か説明しなくてはならないときに「いや神道は言挙げしないし、する必要がないんです。神道が知りたいのなら私の姿を見て下さい」と言う。しかし、その時「神主さん、なぜ右足から出て、大麻は左右と振るんですか。今読んだ祝詞というのは一体どういう意味があるんですか」「いや神道は言挙げしない。語らない」「語らないんじゃないと語れないんじゃないですか。ひょっとしたら知らないんじゃないですか。ちょっとその祝詞見せて下さい。振り仮名振ってあるじゃないですか。意味分かっているんですか。祝詞なのに`は、ゑが`わ、ゑになっていたり`ふ、ゑが`う、ゑになっていたりしてますね」「いや言挙げしない」。そこまで問いたい人がいないというだけのことですよ。私の父がよく言っていたんですが「もし百人の人がいて九十九人の人が質問しなくても、たった一人の人間が『おかしいんじゃないですか』と問う。その時それに答えられなかったらそれで終わりだぞ」と、子供の頃から聞かされてきました。怖いのは多数じゃない。本当に知っている人間、考えている人間。それこそが一番怖いんだ。ただそういう人たちは思慮深いですから面と向かって恥をかかせるようなことはしない。⁽⁴⁾ **武士の情**けですよ。それだけの話です。それで通ってきたと思っている人がたくさんいるわけです。何とか無事にやってきた。今日まで大丈夫だったから明日も大丈夫だろう。しかし、本当に神明に奉仕する者として、正しい生き方なんだろうか。知らないもの、無知なもの、あやふやなものは正に強いて勉めてなんとかしよう、恥ずかしくて聞こうとする、年上であろうかならうが。私はそういう謙虚さが、神道あるいは神社を支えてきたのではないかと思うのです。(略)

私が今しているような話は、ある意味では文書として知っているわけです。要するに、言挙げすべきことと言挙げしてはいけないこと、しくなくていいところ、これをきちんと踏まえて、いざ言挙げしなければならぬ時は、きちんとものを言える。例えば徳川幕府が寛文五年に出した『⁽⁵⁾ **諸社禰宜神主法度**』を見ましても「諸社の禰宜神主等専ら神祇の道を学び、その敬ふ処の神体は愈々これを存知すべし」、神祇の道を学び(神道の学問)そして仕えている神社、御祭神、その地域、そういうものをますますよく知るようになる。これは『諸社禰宜神主法度』の第一条です。神主に求められているのは、正に学問、勉強です。これは人に言挙げする必要がない、何も吹聴しなくてもいいということなんです。勉強、学問をすることによって、いざという時に、きちんと説明することができる必要があるのです。それは、存知しているところ、知っているところがいいんです。学んだところをきちんと言挙げせよということです。

(阪本是丸『神道と学問』による。仮名遣いは一部改めた)

*****「やはり神道は言挙げしないのが相応しい」…司馬遼太郎『この国のかたち(五)』『神道(七)』の結びの文章に対応した表現。同章では、平田篤胤にはじまる幕末期の国学の展開に力点を置きながら、中世から近世末の神道思想の展開について叙述されている。

問一　傍線部(1)の意味を、一〇字以上一五字以内で解答欄に記入しなさい。

問二　傍線部(2)の意味を、一〇字以上一五字以内で解答欄に記入しなさい。

問三　傍線部(3)を言い換えた文章として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、冒頭の記号を解答欄に記入しなさい。

ア　神道という宗教は存在しないのだ。
イ　いかなる立場からも、神道を解釈してはいけないのだ。
ウ　神道の解釈は仏教や儒教の立場からでないとできないのだ。
エ　仏教や儒教の立場からの神道の解釈は、元来日本にはなかったのだ。

問四　傍線部(4)の具体的な内容を、「本当に知っている人間」「神明に奉仕する者」という語句を用い、三〇字以上四〇字以内で解答欄に記入しなさい。

問五　傍線部(5)の読みを解答欄に記入しなさい。

問六　この文章の要約を、二五〇字以上三〇〇字以内で解答欄に記入しなさい。

問七　この文章の内容を踏まえ、神職としてどう恥をかきながら氏子・崇敬者に接するべきか、自らの意見を五五〇字以上六〇〇字以内で解答欄に記入しなさい。

令和4年度 神道学専攻科

国語総合

次の文章を読んで、後の問一～六に答えなさい。

『日本書紀』神代上第八段の一書に、五十猛命・大屋津姫命・杵津姫命の三神を「木種」の管理者と認定した記事が見える。木種・木苗にかかわる民俗はきわめて重要なものではあるが、その調査は進んでいない。焼畑輪作を終え、山を休閑させるに際して榛の木苗を植える習俗は、かつて各地に見られた。山梨県南巨摩郡早川町奈良田では、焼畑跡への移植を目的として、榛、フシの木、落葉松の二年目の苗を取るために女たちがそろって谷へ入った。岩手県裨貫郡大迫町内川目(現花巻市)でも焼畑の跡へ榛を植えたが、ここでは「種榛の木」として榛の巨木を守り育て、毎年、その木の下から苗を探って移植したものだという。このような「種木」に対する尊崇も樹木信仰発生の一つの要素になっていたはずである。

焼畑輪作の二年目ないし三年目の畑を「クナ」と称する地が神奈川・長野・山梨・静岡・宮崎県などにある。原初、焼畑地を一年ないし二年で放棄休閑させていたころ、その休閑地の木が順調に再生することを祈ってその地を禁足地とし、「来勿」と称していたことが推察される。

⁽¹⁾これも、自然に対する人間の謹しみを示すものであった。

静岡県口坂本では、毎月一日は木が生える日だから一日には木を伐ってはいけない、四日は竹を伐ってはいけないと言いつけている。また、静岡県焼津市小川では一月四日を「木を植える日」と称して、この日は「松の木を逆さに植えても根づく」と語り伝えている。これと対応する形で、静岡県榛原郡吉田町では、寒の明け一週間前ぐらいに屋敷の木を一本でも切らなければならないと言いつけていたので、植木屋が民家をまわって庭木の小枝を一本だけ切ってまわり、祝儀をもらう風があったという。寒明けを期して樹木が再生することを願う呪術であったと思われる。静岡県磐田郡豊田町富里(現磐田市)では、木の三尺から下には金神様がいるから三尺から下の枝は伐るものではないと言いつけている。植木職人の伝承のなかからもさまざまな木の民俗が読みとれる。

宮崎県西臼杵郡高千穂町には一月十四日を「松入れ」と称して、前年に結婚・誕生など吉事があった家に、根引きの松を包んだものを「ヨイヨイ・サッサ」の掛け声で夜中に投げこむ行事があったという。宮廷を中心に貴族の間で行なわれた「子の日の遊び」「姫小松引き」「子の日小松引き」は中国の影響によるもので、松の芽を食したと伝えられるが、これが民間の「春山入り」と習合したことも考えられ、その際、切り松ではなく「根引き松」であることの意味が大きくなる。高千穂の松入れは、言い換えれば、吉事に対して共同体から「松苗」を贈ることになる。松入れの松は、植えるために根引きにされていたのであった。こう見てくると、子の日の小松引きについても、単に芽を食したのみならず、植える習俗があった可能性もさぐってみなければならない。藤枝市滝沢八坂神社の田遊び「田植」の詞章の冒頭では、⁽²⁾「へ東山に 東山に 子の日の姫小松 リリウラ 子の日の姫小松 リリウラ この木引かむや この木引かむや」と歌われる。

椿はその花で人を楽しませ、実によって人に油を恵み、材は道具として

役立ち、灰までも染色に際して力を発揮した。青森県の夏泊崎や秋田県の男鹿半島にはみごとな椿山がある。柳田国男は昭和三年一月三日のラジオ放送で、「椿は春の木」と題して、天然記念物に指定された北の椿はいわゆる天然記念物ではなく、人の手によって伝えられ、守られたものであったことを語った。

伊東市の鹿島踊りの詞章に次の歌詞がある。

へ鎌倉の御所のお庭に椿を□X様にやる　日が照れば涼み所
雨が降らば雨やどり

また、駿河麦揚唄では次のように歌われる。

へ麦を搗いて帰る道に椿を□X日が照らば涼みどころ
雨が降らば雨宿

これらを見ると、「椿を□X」という常套句が広く行なわれていたことがわかる。実生の椿を育てる方法もあるが、椿の苗を移植して育てる方法もあった。

つぼいちち海石榴市の八十の衢に立ち平し結びし紐を解かまく惜しも
(『万葉集』二九五―)
ちまた紫は灰さすものぞ海石榴市の八十の衢に会へる子や誰
(『万葉集』三一〇―)

海石榴市は、奈良県桜井市金屋の椿市観音・椿市地藏がある地とされている。その命名由来につき、折口信夫は、山人が椿の枝の杖を持ってきて魂ふりをしたことによると説く。別に、市の場にその標のごとく椿の古木があったことなどが想定できるが、むしろ、山の人が椿の苗を持ち来って町びとと里びとに売る、その椿が名物になっていた市と考えるべきではなかろうか。祭日に神前に収種物を奉納し、その一部によって「種替え」を行なうという形で作物の品種改良を行なう民俗は各地にあり、その伝統は長かった。椿も、祭日・緑日・市に登場し里に広まった植物である。同系のものに、魔除けとして用いられる柗^③があった。椿が山から里へ、里から町へと広がったと同様、柗も山から里、里から町へと広がり、現在も、京都や奈良の町中において、その一枝一枝が実に多くの家々で節分の門口を飾っている。

永遠の寿命を与えられた八百比丘尼は椿の枝を持って諸国をめぐったと伝えられる。八百比丘尼は日本海側の若狭を起点とし、椿の自生しない雪国を中心に椿の力を宣布し、椿の実種を頒布してまわった「椿の配達人」であった。その実のもたらす油による黒髪の喧伝こそ⁽⁴⁾ **常乙女八百比丘尼**伝承のポイントであった。緑日と祭礼の日、苗木市の出る地は多い。この習俗は、けっして新しいものではなく、それは大和の海石榴市以来の伝統であったと考えられる。『豊後国風土記』のなかにも同名の海石榴市が見えることは、古代にも苗売りの習俗がかなり広い範囲で行なわれていたことを語っている。「□X」といういとなみは、わが国の民俗的伝統だったと言えよう。(野本寛一『神と自然の景観論』。一部人物の氏名・職業・生年は略した)

問一　傍線部(1)の「これ」以外の、文中にあげられた「自然に対する人間の謹しみを示すもの」の具体例二例を、合わせて五〇字程度で解答欄に記入しなさい。

問二　傍線部(2)に著者が注目した理由の推察を、五〇字程度で解答欄に記入しなさい。

問三　空欄□3にあてはまる適切なふりがなを、解答欄に記入しなさい。

問四　傍線部(4)の説明を、同じ段落の語句を用いて解答欄に記入しなさい。

問五　空欄□Xにあてはまる語句として適切なものを、次のア～エから一つ選び、冒頭の記号を解答欄に記入しなさい。そのうえで文章全体の要約を、三〇〇字程度で解答欄に記入しなさい。

ア　謹みて楽しみて
イ　売りと配りて
ウ　伝えて守りて
エ　植えて育てて

問六　文章の内容を踏まえて、日本のまつり・儀礼と自然環境との関係についての自らの考えを、六〇〇字程度で解答欄に記入しなさい。

令和6年度 別科神道専修I類・II類

一般常識・小論文

1 次の空欄□1～□20にあてはまる適切な語句を、別紙解答用紙に記入しなさい。(四〇点)

①　三世紀の日本で約三〇あまりの小国を従え、卑弥呼と呼ばれる女王が支配した国は、□1である。

②　和銅三(七一〇)年に藤原京から遷都した宮都は、□2京である。

③　十一世紀初めに成立し、紫式部が貴族社会を描写した大長編小説は、□3物語である。

④　天正十(一五八二)年の本能寺の変で、明智光秀に襲われ自害した戦国大名は、□4である。

⑤　慶長八(一六〇三)年に江戸幕府を開き、死後、東照宮に神として祀られた人物は、□5である。

⑥　大正十二(一九二三)年九月一日に起こり、東京・横浜など大都市に大きな被害をもたらした大地震は、□6大震災である。

⑦　昭和二十(一九四五)年八月に米国によって原子爆弾が落とされた日本の都市は、□7と長崎である。

⑧　令和六(二〇二四)年に行われる夏季オリンピックの開催地は、フランスの□8である。

⑨　日本の最北端にある県の名称は、□9県である。

⑩　静岡県と山梨県にまたがる成層火山で日本最高峰の山として知られるのは、□10である。

⑪　第二次世界大戦後、ソ連(現ロシア)が占領し続けている日本固有の領土である国後島・択捉島・色丹島・歯舞群島のことを□11領土という。

⑫　令和四(二〇二二)年二月にロシアが軍事侵攻し、現在も大勢の市民が国外に避難する国は、□12である。

⑬　日本国憲法の三原則は、国民主権、基本的□13の尊重、平和主義である。

⑭　日本の金融制度の中心となっている中央銀行で、国内唯一の紙幣を発券する銀行は、□14銀行である。

⑮ 皇祖とされる天照大神を祀り、三重県伊勢市に鎮座する日本最大規模の神社は、

⑯ むだ話をして時間を空費することを示す慣用句を「を売る」という。

⑰ お互いに気が合うことを示す慣用句を「が合う」という。

⑱ 見たことが信じられない様子を示す慣用句を「を疑う」という。

⑲ 心を奪われ、我を忘れてひたすら熱中することを示す四字熟語は、「夢中」である。

㉑ 物事をいのちがけでやることを示す四字熟語は、「一所」である。

2 次の質問二題について答えなさい。(六〇点)

① 別科を受験した動機と、入学した後にどんなことを学び、実践してみたいかについて二〇〇字程度で述べなさい。

② 将来、神職資格を取得して神社に奉職した際に、あなた自身が取り組んでみたい活動を三〇〇字程度で詳しく述べなさい。

⑪ 国連海洋法条約において、領海の外側にあつて海岸の基線から二百海里の距離内に設定されている水域では、沿岸国の天然資源などに関する主権を認めている。

⑫ 湿った空気が山肌に当たり、山を越えて下降気流になるとき、暖かく乾いた風となって地上付近の気温が上がる現象をという。

⑬ インドを中心に五世紀頃に確立したは教祖を持たない宗教である。人の行動の規範となる伝統的な制度や慣習が基盤となり、カースト制度とも結びつきが強い。

⑭ 一五一七年、ウィッテンベルク大学神学教授の神学者は、カトリック教会が発行する贖宥状(免罪符)の販売を批判し、ドイツの宗教改革を指導した。

⑮ 第二次世界大戦終結後、西側諸国によって結成された軍事同盟はである。

⑯ 日本国憲法で第一条にて、「日本国の象徴」であり「日本国民統合の象徴」とされているのはである。

⑰ 東日本大震災からの復興を目的として、内閣に設置されている行政組織をという。

⑱ 「この世に存在するあらゆる事物・現象のこゝと」を意味する四字熟語はである。

⑲ 「多くの人がみな、口をそろえて同じことを言うこと。多くの人の意見が一致すること」を意味する四字熟語はである。

⑳ 平成二十八年(二〇一六)、日本における地域社会の安泰や災厄の防除を願って地域の人々が一体となり執り行われる、三十三件の祭礼行事が、「山・鉾・屋台行事」の名称で国際連合教育科学文化機関であるの無形文化遺産に登録された。

2 次の質問二題について答えなさい。(六〇点)

※なお、解答は解答欄に記入すること。

① 別科を受験した動機と、入学後にどのようなことを学び、実践してみたいかについて二〇〇字程度で述べなさい。

② 将来、神職資格を取得して神社に奉職した際に、あなた自身が取り組んでみたい活動を三〇〇字程度で詳しく述べなさい。

令和4年度 別科神道専修I類・II類

一般常識・小論文

1 次の空欄～にあてはまる適切な語句を、別紙解答用紙に記入しなさい。(四〇点)

① 国づくり神話にも登場し、大国主大神を祭神とする出雲大社は県に鎮座する。

② 日本で標高が最も高く、その山頂が神社の境内地である山はである。

③ 『伊豆の踊子』『雪国』といった代表作で知られるは、日本人の心の精髓をすぐれた感受性をもって表現した作家であり、昭和四十三年にはノーベル文学賞を受賞した。

④ 「昔の物事を研究し吟味して、そこから新しい知識や見解を得ること」を意味する四字熟語はである。

⑤ 「生涯にただ一度まみえること、一生に一度限りであること」を意味する四字熟語はである。

⑥ 日本国憲法の理念は平和主義、国民主権、の尊重である。

⑦ 1年間に国内で新たに生産された財・サービスの価値の合計をといい、アルファベットでGDPと表記される。

⑧ 明治十五年に創立されたは、日本の中央銀行として国庫金の取り扱い、銀行券の発行などを行うのみならず、経済・金融の中核機関として種々の活動を営んでいる。

⑨ 平治の乱により伊豆に流されたは、^{もちひと}以仁王の^{りょうじ}令旨を奉じて坂東武士らと平氏追討の兵を挙げ、鎌倉を本拠として東国を固めた。そして、平氏を滅亡させ、弟の義経を追放し、奥州藤原氏を滅し、建久三年には征夷大將軍に任じられた。

⑩ 江戸時代の大名の分類には、関ヶ原の戦い以前より徳川氏に臣従して取り立てられた譜代大名と、関ヶ原の戦い前後に臣従した大名がある。

⑪ 明治十年の西南戦争は、明治政府に対する不平士族の最大かつ最後の反乱で、を盟主にして挙兵し、熊本県、宮崎県、鹿児島県を転戦したが、政府軍の反撃により敗退した。日本国内で最後の内戦である。

⑫ は、昭和二十六年九月に調印された、第二次世界大戦の終結と国交回復について連合国諸国と日本との間に締結された平和条約である。

⑬ 平安時代初期の僧で、真言宗の開祖であるは、延暦二十三年に入唐して密教を学び、帰朝後は京都の東寺、高野山金剛峯寺の経営に努めた。

⑭ アメリカ合衆国第十六代大統領のは、南北戦争下の一八六三年に奴隷解放を宣言し、「人民の人民による人民のための政治」という民主主義の理念を説いた。

⑮ モンゴル帝国第五代皇帝のフビライが建てた国であるは、南宋を滅し、周辺の国々を服属させ、東アジアに大帝国を建設した。しかし、日本には二度にわたる遠征を行なったが失敗に終わった。

⑯ 全国を平定した豊臣秀吉は、文禄元年、加藤清正・小西行長を先鋒としてに出兵した。初めは連戦連勝したが明の援軍が到着し、こう着状態となり撤退した。慶長元年には再び出兵するも、秀吉が死去したため撤退した。

⑰ 近松門左衛門作の人形浄瑠璃「国姓爺合戦」の主人公の和藤内(鄭成功)は、長崎県の平戸にて中国人の父、日本人の母との間に生まれ、清朝への抵抗運動を続けてに渡った実在の人物である。

⑱ とは、侵食された山地が地殻運動または海水面の変化のために海水の浸入を受け、複雑な海岸線をなしているものである。日本では三陸海岸、若狭湾、志摩半島から紀伊半島、日豊海岸などが有名である。

⑲ 明治時代の実業家であるは、第一国立銀行を経営したほか、製紙、紡績、保険、運輸、鉄道など多くの企業設立に関与し、引退後は社会事業や教育に尽力した。

㉑ もともとオリンピックは古代で4年に一度開催されていた競技大会であった。19世紀末にクーベルタンの提唱によって近代オリンピックが開催されるようになり、現在では世界的なスポーツ大会となっている。

2 次の質問二題について答えなさい。(六〇点)

※なお、解答は解答欄に記入すること。

① 別科を受験した動機と、入学後にどのようなことを学び、実践してみたいかについて二〇〇字程度で述べなさい。

② 将来、神職資格を取得して神社に奉職した際に、あなた自身が取り組んでみたい活動を三〇〇字程度で詳しく述べなさい。